

国立口之津海上技術学校 ～生徒を対象とした船種別勉強会開催・教員との意見交換会実施～

日本船主協会では、優秀な日本人海技者確保のための広報活動を展開しております。
当協会は、昨年度から再開した海技教育機構傘下各校での勉強会を今年度も実施し、この度、国立口之津海上技術学校（長崎県）を訪問、船種別勉強会および同校教員との意見交換会を開催しました。

当勉強会は、労政幹事会「内航ワーキンググループ（WG）」のメンバーが中心となり、海技教育機構の学校の生徒・学生や教員を対象に、内航海運の現状や運航及び荷役の実務等について講演を行い、生徒指導や学習に資することを主な目的としています。

8 回目の開催となった今回は、三洋海運、イースタンマリンシステム、日鉄物流、日本海洋事業および上野トランステックが国立口之津海上技術学校を訪問しました。

生徒対象の勉強会では、各社が運航する石灰石専用船、セメント船、一般貨物船、海洋調査船およびタンカーについて船体説明や荷役等について、実体験を交えながら講演を行いました。講演後、生徒等からは「ケミカルタンカーの安全確保状況」や「生徒時代の取り組むべきこと」等といった質問が挙がり、講師がそれに対応しました。

教員との意見交換会では、口之津校における入学や就職状況、コロナ禍前後での生徒の性格、生徒の特徴、ミスマッチを減らす工夫等について、意見交換を行いました。

当協会は今後も海技教育機構傘下の学校を直接訪問し、生徒・学生や教員と直接意見交換を続けていくとともに、優秀な日本人海技者確保に向け、関連機関と協力して幅広い活動を継続していきます。



勉強会の模様



意見交換会の模様